

特別企画展

妖精たちのすむ森から

中南米調査報告

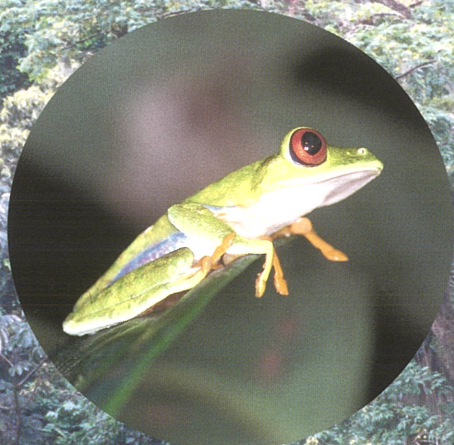


photo by : M.Hisamatsu.Ibaraki Nature Museum

1998. 2/7(土)~4/8(水)

開館時間

午前9時30分~午後5時
(入館は午後4時30分まで)

休館日

毎週月曜日

無料入館日

3月21日(祝) サイエンスデー

入館料

大人 510円(410円)

高・大学生 310円(200円)

小・中学生 100円 (50円)

※()内は20名以上の団体料金です。

※この料金には、野外施設入場料が含まれています。

次回企画展

とき 朱鷺・今私たちが問われる時代

—レッドリストの動物たち—

1998年4月18日(土)~6月14日(日)



ミュージアムパーク

茨城県自然博物館

〒306-0622 茨城県岩井市大崎700番地 TEL0297-38-2000
ハローダイヤルいばらき029-226-8600 #8886(プッシュ回線)
ホームページアドレス <http://www.nat.pref.ibaraki.jp/>

コスタリカのアラフェラ県と茨城県とは1980年のつくば万博をきっかけに友好関係を結び、同国と様々な交流を実施しており、当館にもコスタリカ国立博物館からレダ・マリアさんが研修生として来ています。また、コスタリカには美しい多様な自然が残され、その自然を先進的な方法で保護しています。

そこで、環境に関する問題が注目されている今、茨城県自然博物館では、コスタリカの熱帯雨林を中心にその重要性や自然保護の取り組みを広く県民に紹介するため、平成10年度の夏、「熱帯雨林・その豊かな生き物たち(仮称)」展を計画しています。

今回の調査はその準備のために、主な目的は、第一にコスタリカ国立博物館、生物多様性研究所などと企画展開催のための協力内容について協議すること、第二に熱帯雨林の動植物やその自然保護の実態などについて調査することでした。

アルゼンチンのアンデス山脈東側には、中生代三畳紀から白亜紀の地層が分布し、近年、最古の恐竜類やアマルガサウルス、ギガノトサウルス、などの日本ではほとんど知られていない珍しい恐竜類が発見されています。

これらの恐竜類や南アメリカで独自に進化した哺乳類などの化石を県民に紹介するため、群馬県立自然史博物館との共同で企画展を平成9年7月から9月に開催しました。

企画展の展示資料の大部分が、フェノスアイレスの[ベルナルディーノ・リバダビア]アルゼンチン国立自然科学博物館からの借用標本のため、調査は、博物館の調査が中心で、平成8年1月、2月、7月に実施しました。調査内容は、展示される資料の選定、計測、写真撮影と恐竜化石発掘地の現地調査でした。

今回の展示では、その時の調査の様子や間近に見ることのできた美しい自然や、そこに住む生き物たちの姿を写真を中心に紹介します。



コスタリカの熱帯雨林の相観、キノコの傘のような超高木の樹冠と多重の階層構造が観察できる



これから熱帯雨林の調査に行く栗栖(左)・久松(中央)、小幡(右)各学芸員



しめ殺し植物(*Ficus* sp.)樹木の上で発芽したしめ殺し植物の気根は地上に根を下ろし、母木の樹木を包み込むように生長している

主な展示

コスタリカ

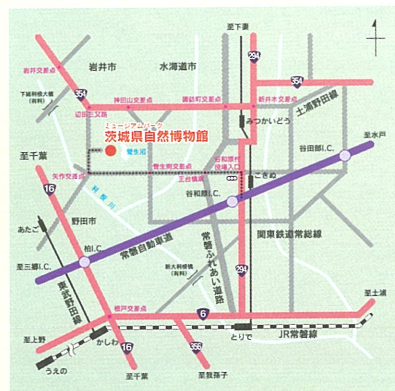
- ＜熱帯乾燥林の生物＞
- アリとアカシアの共生
- しめ殺し植物
- イグアナ
- ハキリアリ

＜熱帯雨林の生物＞

- 板根
- オオツチグモ(タランチュラ)
- アカメアマガエル
- イチゴヤドクガエル

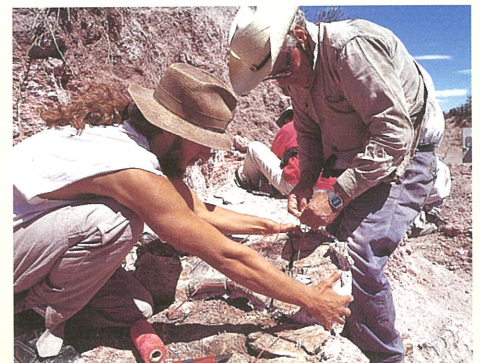
アルゼンチン

- ＜調査地の自然＞
- ＜バタゴニアの恐竜化石発掘地＞



クロシネガタリス(*Chlosyne gaudealis*)
タテハチョウのなかまで、コスタリカでは標高800m以下の大西洋側で見られる

- 車利用の場合 常磐自動車道谷和原I.Cから20分
- 鉄道・バス利用の場合
JR柏駅で東武野田線乗り換え、東武野田線愛宕駅～茨城急行バス「岩井車庫行き」又は「岩井西高行き」乗車～「自然博物館入口」下車、徒歩10分



バタゴニアでの恐竜化石の調査(右がボナバルテ博士)